

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鋳工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

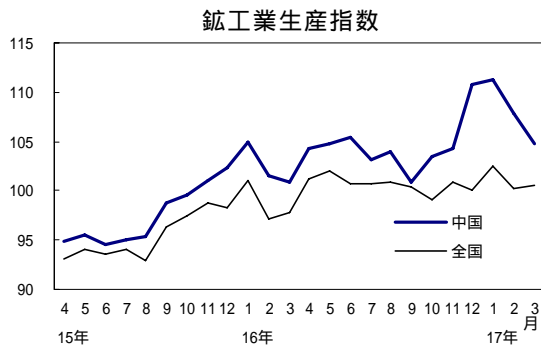
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 2 月)	今回 (平成 17 年 5 月)
住宅建設	増加	大幅に増加

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は増加している。

化学は、ポリエチレン、合成ゴムが好調であるとともに、定期修理を見越して在庫を積み増していることもあり、増加している。鉄鋼は、自動車、家電向けの生産が増加しているものの、高炉改修を行った影響があったため、減少している。輸送機械は、輸出向け自動車の生産が好調であり、昨年末の工場火災の影響も最小限に抑えられたことで増加している。一般機械は、減少しているものの、受注量は減っておらず、おおむね堅調に推移している。電子部品・デバイスは、デジタル家電やパソコン向けの液晶素子や、半導体集積回路を中心に生産が好調であるため、増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年3月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

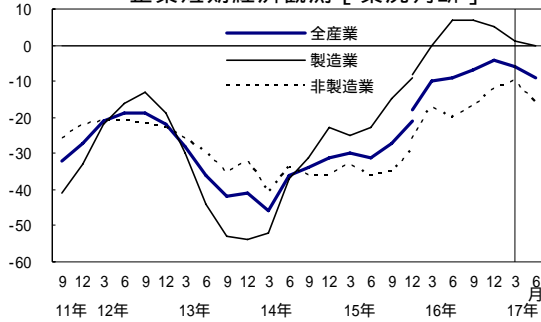
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
化学	17.6	3.7	2.0	1.7	9.4
鉄鋼	12.1	5.0	3.2	3.3	4.0
輸送機械	12.0	22.0	6.3	12.4	92.8
一般機械	10.4	9.5	11.6	2.1	10.4
電子部品・デバイス	7.6	4.2	15.4	15.3	-
鋳工業	100.0	3.4	1.7	0.9	7.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

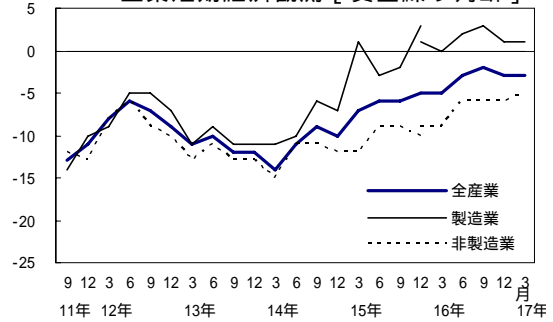
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



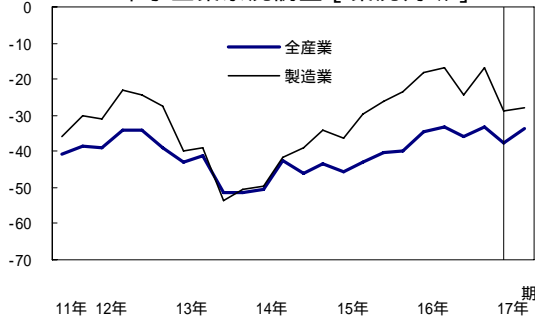
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「自動車関連が好調で国内、欧米等海外とも受注拡大し向こう3か月フル操業の状況となっているが、材料の支給が遅延ぎみでとても作りきれない。材料メーカーも同様の状況と聞いている(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

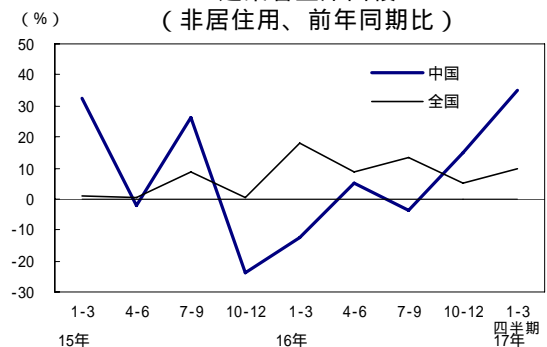
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	16度実績見込み	17年度計画
全産業	18.6 (1.0)	10.1
製造業	17.2 (3.9)	7.6
非製造業	21.0 (3.8)	14.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

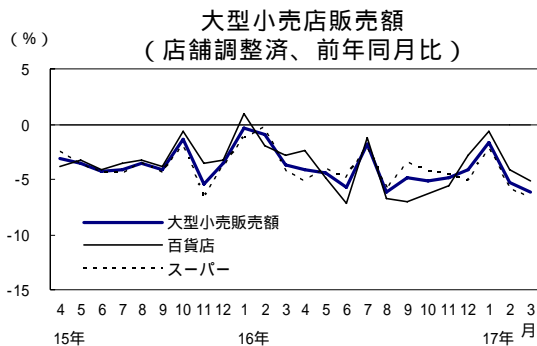
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、年末からの冷え込みとセールが重なったことで、冬物衣料が好調だったものの、下旬になると需要が落ち込み、全体では前年を下回った。2月は、前年がうるう年だったことと、降雪の影響により来客数が伸び悩み、春物衣料が低迷したのをはじめ、飲料品も落ち込み、全体でも前年を下回った。3月は、引き続き降雪の影響で、来客数が伸びず、衣料品では春物商品が低迷するなど、全体でも前年を下回った。なお日本百貨店協会によると、中国地区の4月の売上高は、前年同月比で0.0%の増となっている。

スーパーは、降雪の影響や気温が低く推移したことなどから、来客数が伸び悩むとともに、春物衣料が不調となったため前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「客単価も変わらないが、一人当たりの買上点数も伸び悩んでいる。競合店を客が買い回りをしている、非常に厳しい状況が続いている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

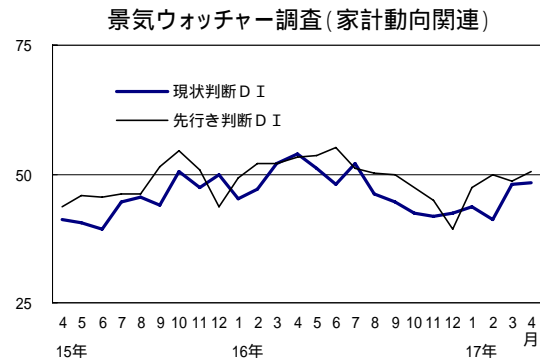
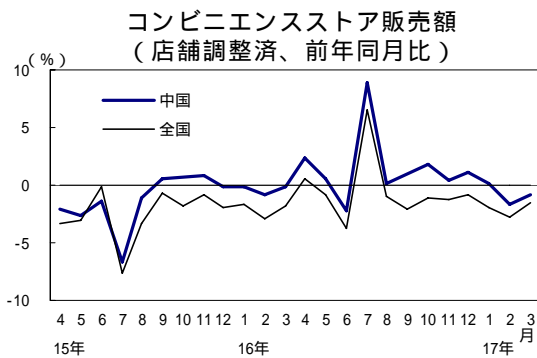


(前年同期比、%)

	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	4.7	4.2	4.7	4.2
百貨店	4.8	4.7	4.7	3.2
スーパー	4.7	3.8	4.7	4.9
コンビニ	0.3	3.2	1.1	0.8
景気ウォッチャー	50.9	47.7	42.2	44.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

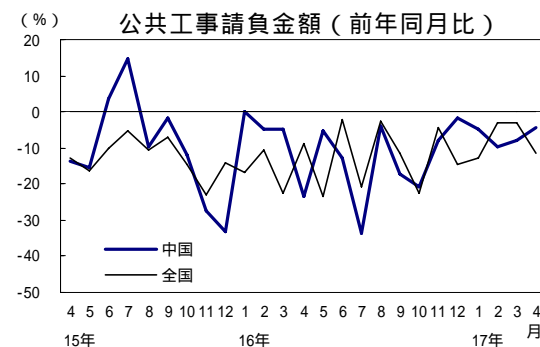
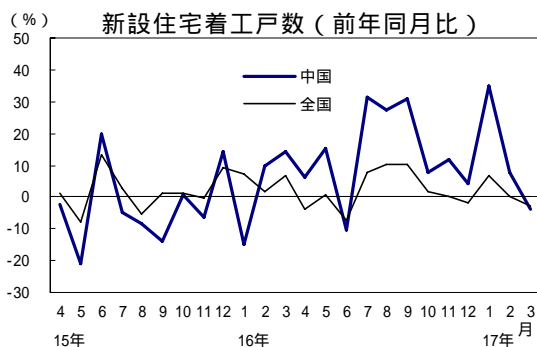
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家と持家が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

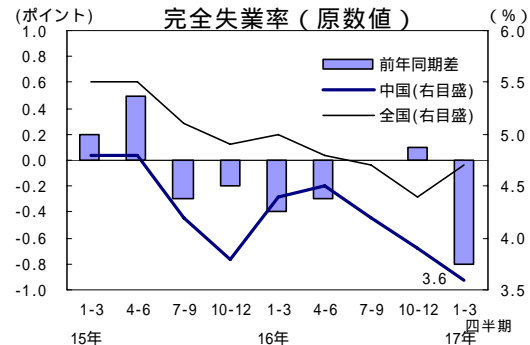
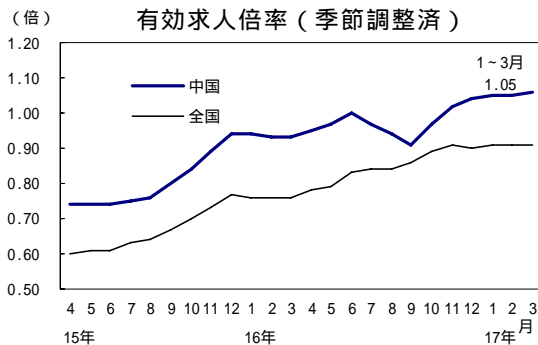


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

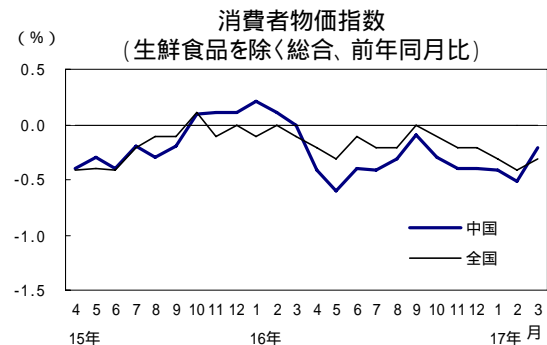
「求人は微増で大きな変化はない。増加した業種は電機製造業、情報サービス業、運輸業だったが、その増加要因は特定企業からの大量求人によるものや、運輸業などでは繁忙期（引越）対応の臨時求人である（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	164	153	140	133	44
（前年比）	24.4	7.8	2.1	5.0	27.9
負債総額	344	404	322	418	89
（前年比）	59.3	26.9	2.7	25.1	47.8



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・入園者数に関しては、前年対比でも少し落ち込んでいるが、消費単価に関しては、ほぼ昨年並みに推移している（テーマパーク）

<先行き>

・隣国の情勢からみると今年は国内旅行が増えるのではないかとということで、当館の予約状況は日に日に増している（観光型ホテル）

景気ウォッチャー調査（合計）

